

研修区分表

令和7年4月17日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6			6	(到達目標) ◎これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような仕事を行うか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に参加できる。
(1) 多様なサービスの理解	3			3	(講義) ①介護保険制度の下でのサービス ②介護保険外のサービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	(講義) ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9			9	(到達目標) ◎介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解している。
(1) 人権と尊厳を支える介護	3			3	(講義) ①人権と尊厳の保持 ②ICF ③QOL ④ノーマライゼーション ⑤虐待防止・身体拘束禁止
(2) 自立に向けた介護	3			3	(講義) ①自立支援 ②介護予防
(3) 人権に関する基礎知識	3			3	(講義) ①人権に関する基本的な知識
3 介護の基本 (6時間)	6			6	(到達目標) ◎介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対策のうち、重要なものを理解できる。 ◎介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2			2	(講義) ①介護環境の特徴の理解 ②介護の専門性 ③介護に関わる職種
(2) 介護の職業倫理					(講義)

	1		1	①介護職の職業倫理 ②介護福祉士の倫理
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2		2	(講義) ①介護職における安全の確保 ②事故予防、安全対策 ③感染対策
(4) 介護職の安全	1		1	(講義) ①介護職の心身の健康管理 ②感染予防
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	9		9	(到達目標) ◎介護保険制度や障害者福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
(1) 介護保険制度	3		3	(講義) ①介護保険制度創設の背景および目的、動向 ②介護保険制度のしくみの基礎的理解 ③制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3		3	(講義) ①医療行為と介護 ②訪問看護 ③施設における看護と介護の役割・連携 ④リハビリテーション
(3) 障害者福祉制度およびその他の制度	3		3	(講義) ①障害者福祉制度の概念 ②障害者福祉制度のしくみの基礎的理解 ③個人の人権を守る制度の概要
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎高齢者や障害者のコミュニケーション能力は、1人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解している。
(1) 介護におけるコミュニケーション	3		3	(講義) ①コミュニケーションの意義、目的、役割 ②コミュニケーションの技法 ③利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ④利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	(講義) ①記録における情報の共有化 ②報告・連絡・相談 ③コミュニケーションをうながす環境
6 老化の理解 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	3		3	(講義) ①老年期の定義 ②老年期の発達と老化にともなう心身の変化の特徴 ③老化にともなう心身の機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	3		3	(講義) ①高齢者の症状・疾患の特徴 ②高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ③高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
7 認知症の理解 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。
(1) 認知症を取り巻く環境	1		1	(講義) ①認知症ケアの理念 ②認知症ケアの視点
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2		2	(講義) ①認知症の概念 ②認知症の原因疾患とその病態 ③原因疾患別ケアのポイント ④健康管理
(3) 認知症にともなうこころとからだの変化と日常生活	2		2	(講義) ①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ②認知症の人への対応
(4) 家族への支援	1		1	(講義) ①家族への支援 ②認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア
8 障害の理解 (3時間)	3		3	(到達目標) ◎障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
(1) 障害の基礎的理解	1		1	(講義) ①障害の概念とICF ②障害者福祉の基本理念
(2) 障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	1		1	(講義) ①身体障害 ②知的障害 ③精神障害 ④発達障害 ⑤難病
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1		1	(講義) ①家族の理解と障害の受容支援 ②介護負担の軽減
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)				(到達目標) ◎理論や法的根拠に基づく介護の基本的な考え方を習得する。 また、介護技術の根拠となる「こころとからだのしくみ」に関する知識を習得する。 ◎介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得

	75		75	<p>する。また、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部介助・全介助等の介護が実施できる。</p> <p>◎尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術・知識を習得する。</p> <p>◎生活の各場面での介護について、事例を通じて、生活支援を提供する流れを理解し、技術を習得する。また、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。</p>
(1) 介護の基本的な考え方	3		3	<p>(講義)</p> <p>①理論にもとづく介護</p> <p>②法的根拠にもとづく介護</p>
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	3		3	<p>(講義)</p> <p>①学習と記憶に関する基礎知識</p> <p>②感情と意欲に関する基礎知識</p> <p>③自己概念と生きがい</p> <p>④老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因</p>
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6		6	<p>(講義)</p> <p>①生命の維持・恒常のしくみ</p> <p>②人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</p> <p>③骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用</p> <p>④中枢神経と体性神経に関する基礎知識</p> <p>⑤自律神経と内部器官に関する基礎知識</p>
(4) 生活と家事	3		3	<p>(講義)</p> <p>①生活と家事の理解</p> <p>②家事援助に関する基礎知識と生活支援</p>
(5) 快適な居住環境整備と介護	3		3	<p>(講義)</p> <p>①快適な居住環境に関する基礎知識</p> <p>②高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用</p>
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p>(演習)</p> <p>①整容に関する基礎知識</p> <p>②整容の支援技術</p>
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p>(演習)</p> <p>①移動・移乗に関する基礎知識</p> <p>②移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法</p> <p>③利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援</p> <p>④移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法</p> <p>⑤移動と社会参加の留意点と支援</p>
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p>(演習)</p> <p>①食事に関する基礎知識</p> <p>②食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法</p> <p>③楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法</p> <p>④食事と社会参加の留意点と支援</p>
(9) 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	<p>(演習)</p> <p>①入浴・清潔保持に関連する基礎知識</p> <p>②入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法</p> <p>③楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法</p>

(10) 排泄に関連した こととからだのしくみ と自立に向けた介護	6		6	(演習) ①排泄に関する基礎知識 ②排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ③爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法
(11) 睡眠に関連した こととからだのしくみ と自立に向けた介護	6		6	(演習) ①睡眠に関する基礎知識 ②睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ③快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法
(12) 死にゆく人に関連した こととからだのしくみ と終末期介護	6		6	(講義) ①終末期に関する基礎知識 ②生から死への過程 ③「死」に向き合うことへの理解 ④苦痛の少ない死への支援
(13) (3)～(9)基本的技術の 振り返り	4.5		4.5	(演習) これまで学んだ介護に関する技術を復習する
(14) 介護過程の基礎的理解	6		6	(講義) ①介護過程の目的・意義・展開 ②介護過程とチームアプローチ
(15) 総合生活支援技術演習	4.5		4.5	(演習) ①演習を行うにあたって ②「食べたくない」と訴える施設入所者の援助 ③できるだけ外に出かけたいと思っている利用者の援助 ④トイレでの排泄にこだわりをもつ利用者の援助
10 振り返り	4		4	(到達目標) ◎研修全体を振り返り、当該研修で学んだことの再認識を行うとともに、今後も継続して学習・研鑽する姿勢を形成する。また、自身の学習課題を認識できる。
(1)振り返り (2)就業への備えと研修修了後 における継続的な研修	4		4	(講義) ①研修を通じて学んだこと ②継続的な研修が大切 ③介護職のキャリアアップと介護職がめざす「介護」

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けてわかりやすく記載すること。

なお、科目9の(6)から(11)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする